



第19図 b 断面図 (下部数字は地点番号) ——Icing インデックス等値線,-8D 等値線

ものが存在しているのではないかと考えられることより、インデックスにおいて、強の現象が起こる可能性のところが弱の現象があるのはこうした解釈ができる。今回の調査では乱気流領域を決める場合、C.A.T インデックスでは $[I] > 0$ 、D.L.R インデックスでは $[D] > 300$ 、着氷領域を決める場合 $[\pi] < 0.5$ という値が妥当であると思われる。

終りに今回の調査に便宜を計らって下さった東京航空地方気象台添田次長、橋場予報課長をはじめ直接ご指導戴いた森子報官、気象庁気象衛星課神子調査官、計算に

際してご指導を戴いた東京管区気象台調査課 巽、青木両技官に対して謝意を申し上げます。

文 献

- 1) K.L. Calder, 1949: The criterion of turbulence in a fluid of variable density with particular reference to conditions in the atmosphere. *Q.J. Roy. Met. Soc.* **75**, p 71-88.
- 2) 森 俊入, 1956: 着氷の予報, *研究時報*, **8**, p 443-449.
- 3) 荒川秀俊, 1958: Clear-air turbulence, 気象研究ノート, **58**, p 2-7.
- 4) D. Colson, H.A. Panofsky, 1965: An index of clear air turbulence, *Q.J. Roy. Met. Soc.* **91**, p 507-513.
- 5) H.A. Panofsky, I.A. Singer, 1965: Vertical structure of turbulence **91**, p 339-344.
- 6) 森 俊入, 柴田 宣, 1970: 本邦における C.A.T インデックスと遭遇率, 航空気象業務打合せ会資料, p 57-64.
- 7) W.T. Roach, 1970: On the influence of synoptic development on the production of high level turbulence, *Q. J. Roy. Met. Soc.* **96**, p 413-429.

昭和49年度朝日学術奨励金および第15回 藤原賞受賞候補者の推薦について

朝日新聞社及び藤原科学財団より下のように候補者推薦の依頼がありました。推薦を希望する会員はいずれも**2月2日(土)**迄に、氏名、連絡先および研究題目を明記して、担当理事、北川信一郎(〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学理工学部 電話 0488-52-2111)に申出下さい。

朝日学術奨励金

1. 対象は自然科学および人文科学の研究に従事する個人、グループまたは団体とする。いくつかの学問領域にまたがるいわゆる「学際研究」を歓迎す

る。

2. 奨励金の希望金額に制限はないが、昨年度は6研究に対し合計753万6千円でした。

藤原賞(藤原銀次郎翁の基金による学術賞)

1. 自然科学の分野で科学技術の発展に卓越した貢献をした研究者1件を推薦する。
2. 被推薦者は原則として1人とし、共同研究者をあげねばならないときはその理由を明記する。
3. 賞状、賞牌および副賞1千万円2件以内が贈呈される。